

研究テーマ名	UBMS 法による極印の表面処理に関する研究
研究内容抄録	<p>プルーフ貨幣用極印の命数向上及び作業環境の改善を目的に、Cr メッキに代わる表面処理として DLC (Diamond-like carbon) 膜の採用を目指し、平成 25 年度末に DLC 成膜装置を導入し研究を進めている。</p> <p>平成 27 年度は UBMS 法による DLC 成膜を行ったプルーフ用極印について、研磨後の傷が問題となることから、各種鋼材及び研磨方法によるテストを行ったところ、おおむね良好な研磨条件が得られた。これらの極印で圧印テストを実施したが、貨幣に条痕が発生し、極印表面に貨幣材の凝着が確認され、更なる改善が必要となっている。</p> <p>また、DLC 成膜した勲章用極印の圧写テストを行い、DLC 膜のはがれは生じないことを確認した。</p>
学会発表	—